

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

寒さに負けない！ 冬野菜の防寒対策について

12月に入ると冷え込みが強まり、霜や冷たい風による被害が心配になります。野菜は寒さにあたることで甘みを増す一方、強い霜にさらされると葉が傷んだり、生育が止まったりします。そこで必要になるのが「防寒対策」になります。



①不織布やビニールで保温(対象作物:ホウレンソウ、コマツナ、レタスなど)

冬の冷たい風や霜から野菜を守るには、「不織布」や「ビニールトンネル」が効果的です。光と空気を通し、夜間の放射冷却を和らげてくれます。また、葉物野菜には、株の上から直接ベタ掛けするだけでも十分効果が期待できます。

より保温効果を高めたいときは、支柱をアーチ状にしてトンネルを作り、その上から不織布やビニールをかけます。注意点として、晴れた日の日中は内部の温度が上がるので、両端を少し開けて換気をしましょう。

②黒マルチやワラや籾殻などで地温を守る(対象作物:ダイコン、ハクサイなど)

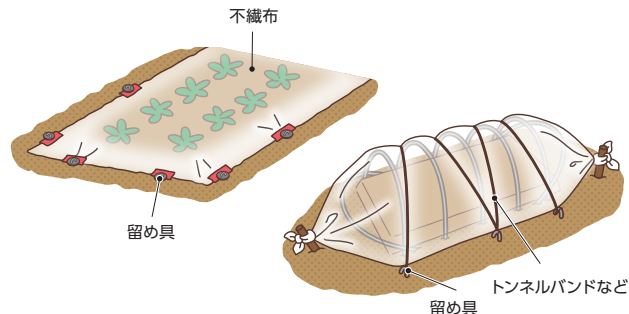
地面からの冷えを防ぐには、「マルチ」や「敷きワラ」がおすすめです。黒マルチは太陽光を吸収して霜柱や凍結を防止します。一方、自然素材のワラや籾殻を株元に敷くことで保温と同時に乾燥防止にもなり、雨の跳ね返りによる病気の感染も軽減します。

③風よけを設置(対象作物:ソラマメ、エンドウ)

冬の北風は野菜を弱らせるので、防風ネットなどを設置し空気の層を作ることで、地温の低下を防ぎます。プランター栽培の場合は壁際や南向きの場所へ移動させましょう。

④凍結時の注意点

冬の朝は地表や野菜の葉が凍っていることがあり、この状態で触れると細胞が壊れ、葉が傷む原因になるので、収穫は霜が溶けてから行いましょう。また、水やりは夕方に行くと凍結の危険があるため、午前中に行いましょう。不織布やトンネル、マルチ、風よけを基本に地温をコントロールすることで寒い季節でも元気な菜園を維持できます。冬の管理をするだけで収量や味が大きく変わります。



【表】野菜の耐寒性と防寒対策の目安

耐寒性	野菜名	防寒対策
とくに強い	タマネギ、ネギ、ラッキョウ、ナバナ、タカナ	かなりの低温に耐えられるので、暖地では不要(風よけ程度でよい)
強い	サヤエンドウ、ソラマメ、ニンジン、ホウレンソウ、コマツナ、ブロッコリー	風よけ、笹立て、敷きワラ、土寄せなどの簡単な防寒対策で十分
やや弱い	ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツ、カリフラワー	冬に収穫する場合は、ベタ掛けなどで防寒
弱い	レタス、セルリー、シュンギク、ミズナ、チンゲンサイ	冬に栽培・収穫する場合は、ハウス、トンネルなどで保温

(出典):全農情報誌「Apron」より

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。